

愛知県環境審議会 自然環境保全部会
会 議 録

1 会議の日時

令和3年7月20日（火） 午後2時から午後4時まで

2 会議の場所

愛知県本庁舎 6階 正庁

3 出席者の職名及び氏名

(1) 委員（3名）

愛知教育大学教育学部教授

渡 邊 幹 男

公募委員（ビオトープ・ネットワーク中部会長）

長 谷 川 明 子

名古屋工業大学大学院工学研究科教授

増 田 理 子

(2) 専門委員（8名）

一般社団法人愛知県猟友会会長

佐 藤 勝 彦

愛知県野鳥保護連絡協議会議長

高 橋 伸 夫

愛知学院大学教養部准教授

富 田 啓 介

名古屋大学大学院環境学研究科准教授

中 川 書 子

愛知県農業協同組合中央会常務理事

廣 田 憲 吾

愛知県森林組合連合会代表理事専務

前 田 徹 恵

東海学園大学名誉教授

宮 崎 幸 恵

岐阜大学社会システム経営学環准教授

森 部 絢 嗣

(3) 事務局（9名）

環境局技監

小 野 俊 之

環境局環境政策部自然環境課

課 長

杉 本 安 信

〃

担当課長

夏 目 享 之

〃

担当課長

兒 玉 真 由 美

〃

課長補佐

小 川 敏 幸

〃

課長補佐

石 原 英 昌

〃

課長補佐

佐 橋 順 子

〃

主 事

内 藤 顕 一

〃

技 師

加 藤 啓 司

4 審議事項等

(1) 審議事項（2件）

ア 第13次鳥獣保護管理事業計画の策定について

イ 第二種特定鳥獣管理計画の策定について

(2) 報告事項（2件）

ア 湿地・里山ネットワークの取組について

イ 生態系ネットワーク形成事業について

(3) 審議等の内容

別添のとおり

(1) 審議事項

ア 第13次鳥獣保護管理事業計画の策定について

(高橋専門委員)

放鳥獣については、実施の場合は十分気を付けて実施しないといけない。国内外来種になってしまう可能性がある。

(事務局)

事務局としても注視している内容である。鳥については、県内産以外は扱わないとしている。現在は、県内産のものが入手できないので、キジ及びヤマドリを含め、放鳥は実施していない。今後とも、放鳥獣については安易に実施しないよう注意する。

(佐藤専門委員)

以前はどこでもキジが繁殖できたが、現在は耕地整備の関係で、一級河川など一部の地区に限られる。以前は猟師の8割か9割が鳥を捕っていたが、現在、鳥を捕るのは全体の1割か2割程度に減って、残りはイノシシなどを捕っている。

ヤマドリの捕獲数はかなり減っている。年間捕獲数は100羽を切っている。ヤマドリについては、保護する地域を市町村レベルでいいので、設定してほしい。

(長谷川委員)

ツキノワグマについて、検討する必要がある。近年は、ツキノワグマが捕殺されている。また、麻酔した個体をどこに放獣すればいいのかわからない。

(事務局)

従来は年間10件程度の確認件数だったが、昨年度と一昨年度は20件程度だった。他県と比べれば少ないが、近年は愛知県でもツキノワグマが問題になることが増えて、一昨年は人身事故が起き、昨年は錯誤捕獲が発生している。

愛知県ではツキノワグマについて、専門家会議を設置している。ドングリの不作だとツキノワグマの大量出没が起きることから、ドングリの実りの調査を行い、この会議でツキノワグマの出没傾向を予想している。

一方で、ツキノワグマは愛知県では希少鳥獣であり、県のレッドリストでは絶滅危惧IA類であり、積極的に排除するものではなく、市街地での出没を抑え、人身被害を防止し、山間部では、集落に寄せ付けない、錯誤捕獲を減らす、といった対策を考えており、地元の意向を踏まえて対策を進めている。

捕獲した個体については、県内に麻酔を打てる人が少ないという問題はあるが、各市町村や専門家の方と協力して、放獣を進めている。

(渡邊部会長)

ツキノワグマは人的被害が出るとニュースにもなる。県の対応について各委員で共有できるようにしてほしい。

(事務局)

後日対応する。

(佐藤専門委員)

秋田県では毎年ツキノワグマの死亡事故が起きているが、大きなツキノワグマの個体を放していいという人はいない。ツキノワグマの増加は人的被害にも繋がる可能性があるので、そのあたりも考慮していただきたい。

(事務局)

ツキノワグマには県境はないので、他県とも協力し対策について検討したい。

(森部専門委員)

生息状況の基礎的調査に関して、鳥類については記載があるが、ほ乳類について何か調査はあるのか。

(事務局)

ほ乳類の調査は、資料に記載している調査のみであるが、5年に一度、計画を策定する際に、調査を実施している。

(森部専門委員)

シカが増えており、他のほ乳類に影響が出てくる可能性がある。レッドリストに掲載のある希少種だけでなく、普通種を含めたモニタリング調査の実施を検討して欲しい。

(事務局)

検討する。

(渡邊部会長)

外来種の問題は、生物多様性戦略 2030 にも記載されており、重要な課題である。特にアライグマについては、我々の住んでいるところに生息しているが、その生息状況の把握は、市町村間で温度差がある。県で方針を示すことで、市町村の予算取りが楽になる。アライグマについて県で分布調査をする、ということ盛り込んで欲しい。

(事務局)

アライグマのように全県的に広く分布するものは対応が難しいが、その対応方針について検討する。

(渡邊部会長)

生物多様性戦略 2030 を活かすために、鳥獣に関する項目で対応を示すことが重要である。

(中川専門委員)

現行計画について、再検討する必要のある項目があれば、教えて欲しい。

(事務局)

次期計画については、検討会を設置し、内容の検討を行う。次回の自然環境保全部会は 12 月頃を予定しており、そこで次期計画の案を提示できるので、内容については、そこでご意見をいただきたい。

(渡邊部会長)

いろいろ課題が出てきたが、最終的には、検討会でご意見をいただきたい。生物多様性戦略 2030 の関係で、スマートフォンのアプリを使って情報を集めており、今後はこういったものを活用し、広くデータを収集することも考えられる。

第 13 次鳥獣保護管理事業計画の策定に関しては、修正を要する意見はなかったため、資料の原案のとおりに進めることとする。

イ 第二種特定鳥獣管理計画の策定について

(渡邊部会長)

シカの個体数推定について、生物多様性戦略 2030 では早期に 8,500 頭まで削減とされている。これも踏まえて検討されたい。

(前田専門委員)

イノシシの個体数推定は、今年実施するのか。

(事務局)

前は個体数を推定する方法がなく、実施できなかった。今回は、国のガイドラインを参考に、階層ベイズ法によって、イノシシの個体数を推定していく方針である。

(高橋専門委員)

イノシシなどについても現場の情報を持っているので、相談して欲しい。

(事務局)

ご意見を踏まえて、検討していく。

(渡邊部会長)

第二種特定鳥獣管理計画の策定については、修正を要する意見はなかったため、原案のとおりに進めることとする。

(2) 報告事項

ア 湿地・里山ネットワークの取組について

(増田委員)

(湿地が樹林化している映像を紹介) 一部、ミズギボウシが残っている部分もあるが、遷移が進み、大部分が樹林化している。なお、この場所は湿地再生を目指して樹林を伐採した。現在、モニタリング調査を実施している。外来種の侵入についても留意している。

(富田専門委員)

伐採後の外来種の侵入について留意する必要がある。

(森部専門委員)

調査地を抽出する基準はあるのか。レッドリストのような保全すべき場所を選定する基準が必要ではないか。

(事務局)

湿地の数に関しては、10年間で10か所の保全としている。選定の基準については、委員の方々に湿地の状況を見ていただいて、植生、昆虫などの状況から、判断をしていただきたい。

(渡邊部会長)

生物多様性戦略2030の72ページについて、やっていける場所からやっていく状況だと思う。

春日井市でシデコブシの調査をしているが、調査地の近くに春日井市の天然記念物のシデコブシの分布域がある。シデコブシは鳥散布で分布を広げるので、1か所だけの保全では不十分である。遺伝子解析の結果、遺伝子交流が起きていることがわかっている。

また、ため池も国で問題になっている。ため池がどこにあるのか、決壊しないのか。ため池があるところには湿地もある。この地域に特有のオキアガリネズという植物がある（ネズミサシとハイネズの交雑種）。これは湿地に依存する種である。この種を探せば、もともと湿地があった場所を一般市民でも調査することができる。そういったことも里地里山のネットワークの中で調べていければよい。

(長谷川委員)

名古屋市野外活動センター内の湿地が消失した件について、道路建設のアセスメントではどのように扱われていたのか。どのような対策をしていたのか、代わりのものが周囲にあるのか、そういった情報はなかったのか。

(事務局)

現在、工事をしている場所があるが、現状は把握できていない。

(中川専門委員)

湿地が森林に変わったのは、湧水の量が減ったためか。

(渡邊部会長)

湿地は、基本的に遷移によって森林になっていく。崩れる（攪乱される）場所が今はあまりないので、葦生湿原も森林に遷移が進んでいる。燃料革命以降、木を切ることもなくなったのも原因である。

イ 生態系ネットワーク形成事業について

(渡邊部会長)

コロナ禍で人を集めた作業ができない現状だが、野外ということもあり、少人数で対応可能な内容を検討いただきたい。